

Twitter 絵師の創作活動に関する質的研究： ギブ文化に注目して

A qualitative study of Illustrating activity on Twitter: Focusing on the giving culture

藤田 華奈[†], 南部 美砂子[‡]
Kana Fujita, Misako Nambu

[†] 公立はこだて未来大学大学院, [‡] 公立はこだて未来大学
Future University Hakodate
g2123053@fun.ac.jp, m-nambu@fun.ac.jp

概要

Twitter 上にイラストを投稿する「Twitter 絵師」は、仲間と交流しながら創作活動を行うことが多い。しかし、これまでの創造プロセスに関する研究では、こうした技術やコミュニティとの関わりについてはほとんど検討されてきていない。そこで本研究では、特にギブと呼ばれるソーシャルメディア特有の互恵的なやりとり注目しながら、インタビューとツイート分析の2つの方法により、Twitter 絵師の創作活動について分析を行った。

キーワード: 創造プロセス, ソーシャルメディア, ギブ, SNS

1. はじめに

ソーシャルメディアの普及により、オンラインコミュニケーションが一般化し、創作活動は他者と共に行うものへと変化してきている。なかでも、Twitter 上に絵を投稿している「Twitter 絵師」と呼ばれる人々は、コミュニティの中で他者と交流しながら創作活動を行う場合が多い。例としては、相互フォローの状態にある他者の絵に対してリプライを送ったり、リツイートやいいねで反応したりすることなどが挙げられる。これらのことから、他者やコミュニティといった社会と、イラストを創造するプロセスには重要な関わりがあると考えられる。

しかし、他者や Twitter が創作過程とどのような関わりをもつのかに焦点をあてた研究は少ない。創作過程そのものについては、熟達者と初心者を比較し、創造性と熟達化の関係について検討した研究があるが、これらは個人や限られたコミュニティ内での活動であるため、他者との交流や広いコミュニティを有する場合の

活動は検討されていない[1]。

そこで本研究では、Twitter 上で展開されている現代の創作活動を分析するためにインデプス・インタビューを行い、創作活動と SNS の互恵的なやりとりの関係を明らかにするためにツイート分析を行った。

2. ギブ文化

まず、「ギブ」は与えることを意味する。また、「ギブ文化」とは、互いに与え合うことを喜びとする文化のことを指す[2]。ソーシャルメディアは不特定多数に対して発信することができ、流れてきた情報を受け取るかどうかの判断は相手に委ねられる。そのため、ソーシャルメディア上でのギブは、いつ「ギブとして発見される」のか分からないタイムラグが生じる[2]。このことから、Twitter 絵師たちが行うギブは、特定の誰かに向けているのではなく、創作活動という活動そのものに向けていると考えられる。つまり、ギブは不特定多数に向けて情報を発信した時点で成立している。そして、Twitter 絵師たちが行っているのは、ギブの循環を通じた創作活動の発達である。このようにギブが循環することで、絵師のコミュニティ全体が発達していると考えられる。

これらのことから、Twitter 絵師たちにとって他者やコミュニティとの関わりは絵を描くうえで重要であると考えられる。つまり、創作活動の過程のなかに社会との関わりが存在しているのではないだろうか。

3. 創造プロセス

本研究における創造プロセスとは、ソーシャルメデ

ィア上でのコミュニティと関わりながら、抽象的な心的イメージからアイデアを産出し、実際にイラストを創造するまでの過程のことを指す。これは、Finke et al. が提唱したジェネプロアモデルの基本構造と、三輪らが実験で明らかにしたアイデアを実際に物理的に具体化していく段階を組み合わせ、さらにコミュニティとの関わりをもたせたプロセスモデルになっている。

4. 研究1：インデプス・インタビュー

Twitter 絵師がどのような創作活動を行い、どのように Twitter を使っているかを分析するためにインデプス・インタビューを行った。対象は Twitter を活用しながらイラストを描いている大学生3名と社会人1名であり、各自の創作活動の内容についてインタビューして、SCAT をベースに質的分析を行った。

SCAT とは言語データをセグメント化し、それぞれに<1>データの中の注目すべき語句、<2>それを言い換えるためのデータ外の語句、<3>それを説明するための語句、<4>そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを提案していく4ステップのコーディングと、そのテーマや構成概念を紡いでストーリーラインと理論を記述する手続きからなる分析手法である[3]。

分析の結果、Twitter 絵師はおもに「コンテンツ・推しの応援」と「モチベーションの維持と向上」のために Twitter を使用していることが明らかになった。まず、Twitter 絵師が創作活動を始めるきっかけになるのが、好きなコンテンツや推しを応援したいという気持ちであった。推しとは、熱心に応援している対象のことを指す。Twitter 絵師はコンテンツや推しを応援する方法として、「ファンアート」と呼ばれるイラスト描き、独自のハッシュタグをつけて投稿していた。独自のハッシュタグは、Twitter 絵師が推している活動者本人がエゴサーチを行いやすくするために作成される。そのため、推しからいいねやリツイートなどの反応がきたり、推しが発信している YouTube の動画に取り上げられたりすることもある。つまり、イラストに独自のハッシュタグをつけて投稿すると、推しに Twitter 絵師自身の応援が届きやすくなる。このことから、「コンテンツ・推し

の応援」は創作活動のきっかけだけでなく、創作活動を継続するためのモチベーションにも繋がっていると考えられる。つぎに、制作途中のイラストを投稿する「進捗投稿」と呼ばれる行為が「モチベーションの維持・向上」に繋がっていることが示された。イラスト制作の進み具合を客観的に確認し、達成感を得ることが「モチベーションの維持・向上」に繋がっていた。また、イラストを客観的に見ることで、修正すべき点に気づくこともできる。

これらの結果から、「コンテンツ・推しの応援」をきっかけに創作活動が始まり、進捗投稿や推しを応援したいという気持ちが「モチベーションの維持・向上」に繋がっていることが明らかになった。

5. 研究2：ツイート分析

Twitter 上で行われる創作活動が何によって支えられているかを分析し、創作活動とソーシャルメディア上で行われる互恵的なやりとりの関係を明らかにするために、「ギブ文化」に注目しながらツイート分析を行った。分析対象は、本研究の筆者自身が創作活動のために使用していた Twitter アカウントに投稿された229件のツイート(2022年7月に投稿されたすべてのツイート)である。分析方法は、発達障害のある人の Twitter を活用したコミュニケーションの特徴を分析した岡(2014)を参考にした[4]。まず、ツイート・リプライ・RT それぞれの投稿数を把握し、つぎに形態素分析をしてツイートの概要を掴むといった手順で分析を行った。

分析の結果、ツイートはおもに「日常のつぶやき」・「交流」・「萌え語り」・「エアリップ」の4つのカテゴリーに分けられた。日常のつぶやきとは、日常に関するツイートのことであり、自己開示ともとらえることができる。そのため、日常のつぶやきを共有し合うことで信頼関係が構築され、交流しやすい環境づくりに繋がると考えられる。交流では、一方的で利他的な行為が「褒め合い」という互恵的なやりとりに変化していることが明らかになった。その例として、フォロワーが創作したキャラクターを借りてイラストを描き、そのイラストをフォロワーへ渡すという行為が確認された。また、

フォロワーにイラストを渡す際には、「〇〇（フォロワーが創作したキャラクターの名前）を描かせていただきました」という文言を使用していた。このような言い回しをする理由には、フォロワーに対するリスペクトやファンであるという気持ちを主張するためではないかと考えられる。このことから、Twitter 絵師同士は互いのファンであり、リスペクトをもってやりとりをしているため、マウントの取り合いが起りにくい可能性が示された。その後、フォロワーは渡されたイラストを褒め、研究者自身もフォロワーが創作したキャラクターについて褒めるといった流れで、褒め合いが発生していた。萌え語りでは、作品やキャラクターに関する解釈を深め合う場面が見られた。このように、萌え語りによって作品やキャラクターに関する解釈のギブが循環し、互いの創作活動が発達していると考えられる。エアリブとは、メンションをつけずに、特定個人に対して送られたツイートのことを指す。エアリブによって、二者間で行われていたやりとりが、第三者もゲットできるようにギブされていることが示された。

これらの結果から、4つのカテゴリーに分けられたツイートには、次のような順序性があると考えられる。まず、日常のつぶやきによって信頼関係が構築されることで、特定のフォロワーと交流や萌え語りが発展される。ただし、そのまま二者間での閉じたやりとりが続く場合だけでなく、エアリブという形式によって深め合った解釈がより多くのフォロワーに提供されることがある。このように、より多くの他者と作品を共有して愉しむ「ギブ文化」が、創作活動を強く支えていると考えられる。また、このような活動はTwitterの機能があってこそ起こるものである。

6. まとめと課題

研究1によって、Twitter 絵師はおもに「コンテンツ・推しの応援」と「モチベーションの維持と向上」のためにTwitterを使用していることが明らかになった。まず、創作活動のきっかけにコンテンツや推しを応援したいという気持ちに関係していた。また、応援するときは、ファンアートと呼ばれるイラストを描く様子が見られ

た。ファンアートは推し本人にあてた「ギブ」でありながら、誰もが見ることができる状態であるため、ファン仲間に対する「ギブ」ともとらえることもできる。このようなファンからの「ギブ」によってコンテンツ全体が盛り上がり、成長すると考えられる。加えて、このようなコンテンツの成長や推し本人からの反応が、継続して創作活動制を行うモチベーションに繋がっていると考えられる。つぎに、制作途中のイラストを投稿する「進捗投稿」により、Twitter 絵師は達成感を得られ、それがモチベーションの維持や向上に繋がっていることが明らかになった。また、イラストを客観的に見ることで、修正すべき点に気づくこともできる。研究1の結果と考察から、イラストを描いている最中とイラストを修正する段階に進捗投稿が関係していると考えた。

研究2によって、Twitter 絵師のツイートは「日常のつぶやき」・「交流」・「萌え語り」・「エアリブ」の4つのカテゴリーに分けられることが明らかになった。「日常のつぶやき」を共有し合うことでフォロワーとの信頼関係が構築され、交流しやすい環境づくりに繋がっている可能性が示唆された。「交流」では、フォロワーが創作したキャラクターを描いて渡すという一方的で利他的な行為が、「褒め合い」という互恵的なやりとりに変化していることが示された。「萌え語り」では、特定のキャラクターに関する解釈を深め合う（ギブし合う）場面が見られた。このことから、解釈のギブが循環し、互いの創作活動が発達していると考えられる。「エアリブ」では、リプライという二者間での閉じたやりとりから、エアリブという開いたやりとりに変化することで、第三者もゲットしやすいようにギブする範囲を広げている可能性が示唆された。これらのことから、他者とのやりとりを行う土台に日常のつぶやきがあり、交流や萌え語りが行われるようになったあと、二者間で循環して洗練されたギブは、エアリブによって第三者がゲットしやすいようにギブの範囲を広げていく、というような順序性があると考えられる。研究2の結果と考察から、交流のひとつである褒め合いはイラストを投稿する段階、萌え語りはイラストのイメージを生成する段階に関係していると考えられる。また、イラストを

投稿するときには、通常のツイートやリプライのほか
にエアリプがあり、エアリプによってギブの範囲の切り
替えが行われている可能性も示唆された。

これらの結果と考察をもとに、Twitter 絵師の創造プ
ロセスモデルを考えられる (図 1)。しかし、研究 1 と
研究 2 で見られた現象は、Twitter というシステム環境
があることで起こるものである。発表では、インタビ
ューとツイート分析から、いくつかの事例を取り上げ、
Twitter 上で展開されている創作活動についてより詳し
く紹介する。

文献

- [1] 三輪和久・石井成郎 (2004). 創造的活動への認知的アプ
ローチ 人工知能学会誌, 19(2), 192-204.
- [2] 岡部大介 (2021). ファンカルチャーのデザイン 共立出
版
- [3] 大谷尚 (2008). 4 ステップコーディングによる質的データ
分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも
適用可能な理論化の手続き— 名古屋大学大学院教育発
達科学研究科紀要. 教育科学, 54(2), 27-44.
- [4] 岡耕平 (2014). コミュニケーションが困難な発達障害の
ある人のキュレーティング・コミュニケーション
Everyday Things の認知科学, 21(1), 45-6

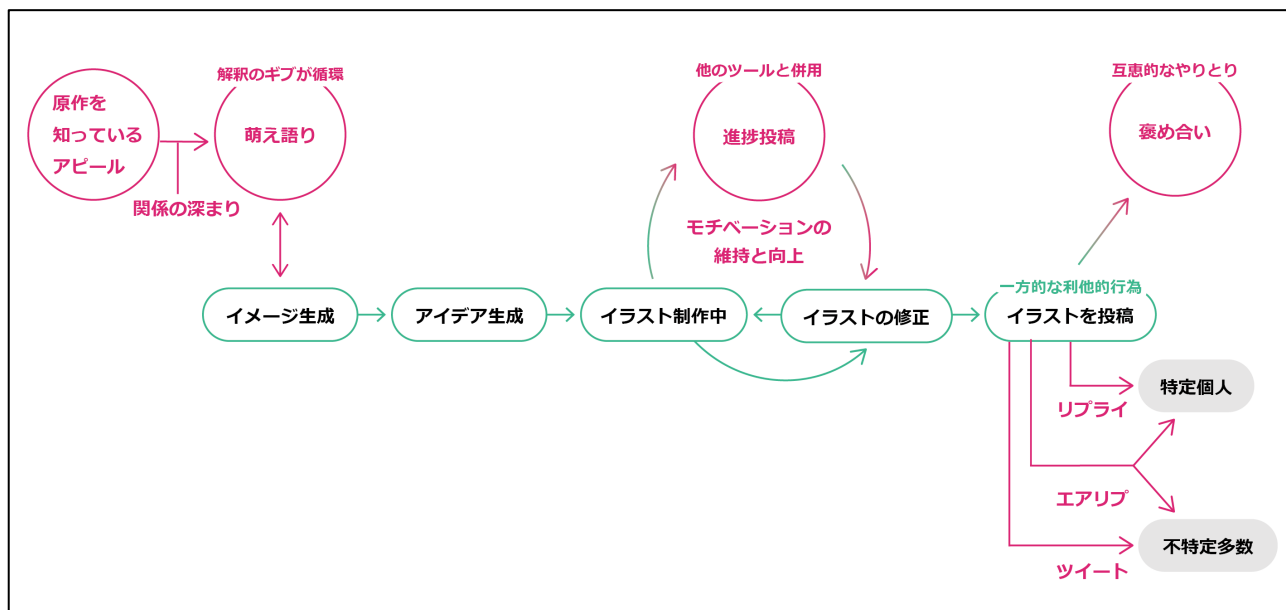


図 1 Twitter 絵師の創造プロセスモデル